



立松新治 議員

交通指導員の制服を見直してはどうか

問 (1) 年間50回以上の出勤で頑張っている交通指導員の予算を聞く。
(2) 古く制服の指導員もいると思う。市として心機一転、制服を調べてはどうか。

問 耕作放棄地削減と地球温暖化防止の一助のため、CO₂抑制に向けてバイオエタノール燃料の振興について聞く。

新調していききたい

答 防災安全課長

(1) 年間一人当たり4万円補助で、会員数49人、予算は196万円である。

答 市長

(2) 3種類の制服の内、通常(冬服)の制服に関して新調していききたい。

バイオ燃料の振興を

結果を見極め農地の有効活用を図る

答 農政課長

バイオ燃料は、県が策定した「あいち地球温暖化防止戦略」にも位置付けられ、県下約5万haの休耕田等へ燃料になる米の生産が検討され、研究チームにより開発等が実施されている。市では19年度、30aの水田でバイオ用玄米「はばたき」の試験ほ場を実施している。今後は結果を見極め、農地の有効活用を図るよう

努めたいと考える。



バイオ燃料試験ほ場(鍋田町地内)

防災対策として 筏川右岸提整備を

問 60Wの白熱球を10Wの蛍光灯へ換えることで、5分の1に消費電力が削減できるが、CO₂対策の一つとして進めてはどうか。

答 環境課長

今後、市として機会があることに広報し、子どもたちの環境教育でも普及を図っていききたい。

ほ場整備に絡めて 計画に盛り込む

答 市長

(1) 国・県の橋梁の耐震対策の実施や、市として19年度、筏大橋と海南橋の耐震対策を行い、残りの橋梁も調査を行い計画的に対策を進める。

問 鍋田地域の防災について、次の事業について尋ねる。
(1) 筏川に架かる樋門を含めた17橋梁の管理。
(2) 筏川右岸提は、土盛りで雑草やごみも多く、火災対策についても整備されていない。防災道路として整備すべきではないか。

堤防補強や樋門、水門の見直しは、総合計画や都市計画マスタープランに織り込んでいききたい。
(2) 中山く鍋田大橋区間は、基本的なほ場整備に絡めて道路整備の計画に盛り込まなければならないと思う。